

築山先生 おすすめ本

『「花の谷」の人びと 海辺の町のホスピスのある診療所から』

土本 亜理子／著 シービーアール (2004)

房総半島の南東にある小さな海辺の町に「もっと良質の終末期医療がほしい」という願いを叶えようと、様々な試みを続けるホスピス付診療所「花の谷クリニック」がある。

ここで生き、ここを旅立ち、支える一人ひとりの物語。

【書庫3 490.15/Ts29 10531956】

『希望の教育学』

パウロ・フレイレ／著 里見 実／訳 太郎次郎社 (2001)

意志と希望を失ったその時に、教育は被教育者に対する非人間化の、抑圧と馴化の行為の手段になっていく…。

いまある所与の状態を引き受け、直視しつつ、誠実かつ老獪に「可能な夢」を模索した教育思想家フレイレの晩年の主著。

【書庫2 371/F46 10492228】

『100万回生きたねこ』

佐野 洋子／著 講談社 (1977)

100万回生まれかわっては、飼い主のもとで死んでゆく猫。飼い主たちは猫の死をひどく悲しんだが、猫自身は死ぬのなんか平気だった。

ある時、猫は誰の猫でもない野良猫となり、一匹の白猫に恋をする…。

【書庫3 E/サノ 10638711】

『ふつうのむらが動くとき 地域再生への道を探る』

築山 崇・桂 明宏／編著 クリエイトかもがわ (2009)

地域経済活性化策が転機を迎え、自立を迫られている小さな“むら”や“まち”。先進地事例に学びながら、

リーダー育成、農村政策、地方財政、地方自治体の役割といった視点から、むらづくり・まちづくりの取り組みを探る。

【書庫2 318.6/F97 10676848】

